

# 熊本地震 その後



8月16日～18日、熊本県阿蘇に出かけました。  
九州を震撼させた大地震から、およそ4ヶ月。  
震源地の益城町を通り、被害の大きかった阿蘇大橋を目指しました。

この写真は、テレビニュースでもよく中継されていた場所。  
完全に橋は崩落しています。

阿蘇には愛犬を連れてよく遊びに来ていました。そのたびにこの阿蘇大橋を  
通って、橋を渡り終えたコンビニに立ち寄っていましたが・・・  
そのコンビニの駐車場の亀裂に、ただただ驚愕しました。



阿蘇大橋を渡った先の、去年愛犬といっしょに泊まったペンションは崩落、幸いご家族は無事だったものの、余儀なく閉店されたそう。もう一軒、よく利用していたペンション「ハウディ」さん。同じ南阿蘇地区で、しばらく電話も不通が続き心配していましたが、こちらは7月から営業を再開されていました。

脱サラされたご主人が、奥さまと愛犬と南阿蘇に移住して始められました。とっても気さくなご夫婦で、お料理も新鮮で美味しく、リピーターの多い人気の宿。

「営業再開されたなら、ぜひお見舞いも兼ねて行こう！」

迷いなく決起して出かけたものの、道路はまだ通行止めが目立ち、今でもアクセスは良いとは正直言えない状況でした。

しかし、待ってくださっていたハウディさんご夫婦はとっても明るかった！ 前向きだった！！

震災当日から1週間は電気も水もガスも不通だったそうですが、幸いプロパンガスで、タンクに水の備蓄もあった。さすがに夜は電気なしで不自由したものの、ちょうどゴールデンウィーク前で食材を大量に仕入れていて、食べることには困らなかった。備蓄していても腐らせるので、近隣のみなさんに全部配給したら、とっても喜ばれて感謝された。しばらくしてインフラがだんだん整備されると今度は配給を受けた人たちが、お世話になったと食料を持って来てくれた。そして、ご夫婦でおっしゃいました。

「人の情け、思いやりの心、肌で感じました」

「おかげで、震災太りしちゃいました！(笑)」

地震という災害に見舞われて、不安・恐怖・絶望の生活を過ごされた。しかしご夫婦はその中で、少しずつ“不幸中の幸い”を見つけ出されたのです。

「感謝」「思いやり」「助け合い」「分かち合う」  
苦しい出来事を経験しなければ得られなかった、まさに崇高な経験です。



## 無病息災ばかりでは、ろくな人間にならない

誰でも、災害には遭いたくない、病気はしたくないものです。  
ここ長崎も揺れましたが、熊本に比べれば被害は全くないようなもの。  
「長崎が震度7でなくてよかった・・・」  
私も正直、そう思いましたよ。

2011年、東日本大震災の時、3月11日から2週間後、臨時休業して  
東北関東のお客様のお見舞い（漢方の配達）に出向きました。  
その時も、正直思いましたよ。  
「九州でなくてよかった、住まいが遠く離れていてよかった」と。

しかし、  
それで「他人事」として終わりにするのと、「明日は我が身」として自分の生活を振り返るのと、違うと思うのです。

被災された東北関東のお客様、そして今回、熊本地震に見舞われたハウディさんご夫婦に触れてみて

「人間、平和で便利に慣れ過ぎると、感謝を忘れて不平不満が募るもの」  
「災害に遭えば、目に見える家・車など財産はすべて失うことになる。最後に残るもの、試されることは、目に見えない前向きに生き抜く精神力だけ」  
「苦境の中で、どれだけ前向きに、未来を信じて頑張って生きていけるか？  
その努力が、自らの人格・人間性・生命力の向上につながる」

そういうことを感じました。

「病気と災害に見舞われずに、安心して穏やかに暮らしたい」  
お正月に無病息災の御守を買うことは否定しません。  
それが人情、よくわかります。私も買います(笑)

でも、それを避けよう避けようとする生き方、嫌な出来事は想像せず、備えなく過ごす生き方では、「前向きに生き抜く精神力」は身につかないでしょう。

太田東西のお客様は、何かのご病気でここにいらっしやいましたよね。  
その時の自分と、今の自分。確かな成長を感じていますか？  
病気を経験したからこそ、辛く悲しい思いをしたからこそ、病人の気持ちが、辛い人の悲しみがわかる。そこに自分を重ね合わせ、「何か力になってあげたい」  
そんな思いやりを持てたら、あなたは立派に成長されていますよ！v(^-^)^v